



## ご挨拶

周りの山々も紅葉し 一段と秋らしくなってきました。皆様方におかれましては コロナ禍の中でいかがお過ごしでしょうか。お伺い申し上げます。

今年の春 “コロナ”が流行し始め そのために今まで楽しみにしていた行事や活動が自粛に追い込まれ 価値観の見直しや根本的に進め方の見直しが要求されるようになりました。

今般 本来であれば「支援の会の総会」を開き 皆様方にこの1年間の活動等についてご報告すべきところ コロナ禍で三密を防ぐため 書中をもって報告に替えさせていただきますこととお許しください。

まず、会計報告の中でも表記されておりますように 今期 支援の会の一般会員と賛助会員の数が 大幅に減少しております。そこへきて「ホスピス祭り」中止のため事業収入がありません。再度大勢の方々のご理解をいただく中で一般会員及び賛助会員の呼びかけを行ってまいりたいと思いますので ぜひご理解の上 ご協力くださいますようお願いいたします。とくに賛助会員の会費は そのままDPCの運営費に充当させていただいております。医療法人どちペインクリニックのホスピスを直接支援し 継続していくためにも 大勢の方々のご賛同をよろしくお願いいたします。

コロナの終息の兆しが見えたら いろいろ工夫して行事や活動を展開していきたいと思っておりますのでご期待ください。

また 今回「ホスピスカレンダー」を制作させていただきました。いろいろな形で どちペインクリニックとかかわりの深い方の作品です。この中で『陽氷』の作者である田中千晶さんは 昨年のホスピス祭りでポッチャの紹介と講演をしていただきました。実は18年前 玉穂ふれあい診療所で“デザート・花植えボランティア”を行い 患者さんから生きるパワーをいただき 合わせて診療所に携わる医療従事者の皆さんのいのちに寄りそう温かい心のパワーをもらって感動し その時のお礼の心と 今生きていることの感謝の思いで 自分で今できることで人様に喜んでもらえればと 不自由な体の中(手足が動かなくなる難病で車いすの生活) 口に筆を咥えて描き上げました。皆様方のお部屋の片隅に飾っていただければ幸いです。

コロナの問題が早く収まり また皆様方とともに このどちペインクリニックのホスピスを支援する活動が再稼働できますよう ご支援ご協力賜りますことをお願いして ご挨拶いたします。

令和2年晩秋

医療法人どちペインクリニックのホスピスを支援する市民の会

代表

吉田 永正



2021年

ホスピスカレンダー

# いのちの詩

感謝の気持ちを込めて贈るカレンダー



タイトル：赤富士

作者名：堀内 昭宏

コメント：作者

河口湖の夕日が沈む時、周囲が真っ赤っ赤になり、ビックリして描きました。



作者名：堀内 里美

コメント：作者

私の素直な気持ちです。



タイトル：南アルプスと桃の花

作者名：玉穂ふれあい診療所病棟スタッフ

コメント：病棟スタッフ

103歳入院患者さんより病棟職員が、ご指導を受けながら作った「桃の花と南アルプスの残雪」という山梨の風景の切り絵です。この患者さんは、80歳から切り絵を始めたそうです。美しいふるさとの景色がいつまでも続きますようにとみんなで制作しました。これからも大切に残していきたいですね。



タイトル：いつもありがとうございます

作者名：小坪 陽

コメント：作者(小学5年)

いつもお爺ちゃんだけでなく、自分達(家族)にも優しくしてくれて、職員の皆さんへのお礼の気持ちと、少しでもお返しが出来ればと思って、心をこめて描きました。これからも、お爺ちゃんの面倒を一緒にみて欲しいという願いもありました。

作者の母

陽が父の面会に初めて行った日、「ここは時間の流れ方が違って別世界！」って言ったのをきっかけに、「時間がゆっくりなら、その分長生きできるね」と、子供たちと話したことに慰められました。診療所の皆さんと父に、一生ものの教えを頂きました。



タイトル：想像花

作者名：小田切 佳明

コメント：作者の妻・息子

体調を崩し、玉穂ふれあい診療所を受診。その時すでに末期の癌でした。その頃から、入院中に見た夢を絵に残すようになりました。その一枚が「想像花」です。どちペインクリニックの在宅医療を受け、最期まで自宅で家族や近所の仲間と共に生活を送りました。腰椎に癌が転移し下半身麻痺になりましたが、絵を描き続け残された人生を楽しみながら生きていました。佳明さんは亡くなくてもこの絵たちは生き続けています。そして残された家族の支えとなっています。



タイトル：陽氷(ようひょう)

作者名：田中 千晶

コメント：20年前、子供の通っていた幼稚園と交流があった診療所のボランティア活動に参加し、「患者さんから元気をもらった」と素直に思った。そこで診療所の目指す医療を知った。14年前原因不明の病を患い手脚がまひになった。ふさぎ込んでいた時間を経て絵を描くようになった。作品は口に筆をくわえたり、指や手の甲に絵の具をつけこすり仕上げる。今回、「陽氷」と題した6月を指すガクアジサイをモチーフにした。「アジサイは6月の長雨を受け止め力強く咲き、癒しを与える」と言う。「生きていく中では思うようにいかないこともあるが、置かれたその場所で自分らしく咲く」ことが大切。



2021年

ホスピスカレンダー

# いのちの詩

感謝の気持ちを込めて贈るカレンダー



タイトル：ヤマメ

作者名：堺 俊雄

コメント：作者の妻・娘

絵画と渓流釣りが大好きだった俊雄さん。いつ頃からだったか タンポ技法を用いた「托銀画」に興味も持ち、静岡県まで長いこと勉強に通った。そして、山梨で何回か個展を開くまでになり、メディアからも注目を浴びた。最後まで自分らしく生き切り、それを支えてくれた診療所の皆さんに感謝の気持ちを込めて宝物のプレゼントをさせていただきます。



タイトル：人にまどわされず 有りのまま生きよう

作者名：清水 政彰

コメント：作者

大きな紙に向かった時「さあ思いきって書いてみろ」と迫ってくる様な重圧感で胸の高鳴りを覚えました。今後こんな風に生きていきたいとの思いで思いきって書いてみました。



タイトル：What a Wonderful World

作者名：玉穂ふれあい診療所病棟スタッフ

コメント：病棟スタッフ

人も、鳥も、犬も、猫も、木々も花もこの世にあるいのちすべてが、かけがえのないものである。夜になれば星たちが輝き始める。空を見上げ、大切なひとのことを思い出す。だからこそ、そのいのちに感謝したい。そんな想いで描きました。



タイトル：野 菊

作 者 名：野元 睦月

コメント：作者の母

野菊は、埼玉に住んでいる時、中学生時代に描いたものです。テーブルの上に飾られている野菊を眺めながら、色づかいも本人の感性と思いそのまま、楽しく描いていました。山梨に引っ越してから、自閉症の症状、パニック障害の症状でなかなか絵を描くことが減りましたが、今年2、3回絵を描いています。



タイトル：晩秋の里

作 者 名：保坂 喜久

コメント：作者の娘

父は絵心のある人だとは思っていましたが、公務員を定年退職後、本格的に水彩画をはじめ、とうとう画家になったのには驚かされました。よい師を得、写生旅行をする仲間を得て、充実した人生になったようでした。風景画が中心でしたが、廃屋や秋冬の景色を描いたものが一番父らしさが出ているように感じています。



タイトル：ONE TEAM

作 者 名：岩崎 健一

コメント：作者

この絵は、ラグビーワールドカップ日本代表をモチーフに、どちペインクリニックのスタッフ一人一人の似顔絵を描き、一つの絵に仕上げました。どの絵が、どのスタッフか？是非当ててみてください。コロナ禍、こんな時だからこそ、こころ一つに「ONE TEAM」



## 理事長あいさつ

今年は、少しへんてこな年だ。

隣の田んぼに何時もはいっぱいいる、オタマジャクシを今年はほとんど見かけなかった。  
近くの大きな川でモーモーと鳴くウシガエルの声も聞かれなかった。

マンゴーの大きな実が、近くの畑(他所の)で育っている。  
地球温暖化で、山梨県は亜熱帯地方になってしまうのだろうか？  
「バナナでも植えてみようかしら」などと思ってみたりする。

そんな中で、コロナ禍です。  
お祭りをやろうなどという気持ちも萎えてしまいました。  
残念と言うほかはないが、これもまたやむを得ぬことです。

来年は、またぜひとも「ホスピス祭り」を復活させたいものです。  
今年は充電の年です。  
皆さんも、健康に過ごしていただき、  
今後ともご支援ご協力よろしくお願い致します。



医療法人どちペインクリニック  
理事長 土地邦彦



### 編集後記

秋が深まり、一段と寒さが増してまいりました。

今回のカレンダーは、今までに増して皆さんからのお力を頂きました。

ありがとうございました。また子どもたちからも、可愛い大きなパワーをいただきました。  
何となく温かな「ほほえみがえし」が出来るカレンダーに仕上がったと思います。

今年は皆で集まってワイワイするというのは、難しい一年でした。つくしんぼを編集しながら、皆さんの顔やいろいろなことを振り返っております。来年はいい年になるといいなあ、また多くの皆さんと繋がれますよう頑張って活動していきます。ご支援をよろしくお願いいたします。

良いお年をお迎えください。